

第 16 回大阪府下メインバンク調査（2024 年）

メガはシェア縮小、地銀・信金がじわり拡大 ～存在感増すネット銀行～

はじめに

2024 年 7 月の金融政策決定会合で、日銀は政策金利の 0.25% の利上げを決定した。これにより、長年続いたゼロ金利時代が終わり、「金利のある世界」に突入した。金融機関は短期プライムレートを引き上げ、それに伴い企業の調達金利も上昇。大阪でも、メガバンク、地方銀行、信用金庫など問わず、金利の引き上げが進んでおり、長年続いていた低金利競争が徐々に緩和されている状況にある。

その一方で、金融機関には金利に見合ったサービスも求められている。大阪は他地域に比べて多くの金融機関の支店があり、企業にとっては金融機関の選択肢は多い。ネット銀行やネットサービスが当たり前となり地域性が薄れる現状において、資金供給以外にも課題解決できる金融機関でなければ、企業から選ばれることは難しくなっている。その一方で、金融機関による特色のあるサービスの提供が進むことで、メインバンクを変更する企業も多く現れるだろう。そうなれば、今後のメインバンクシェアにも影響を及ぼす可能性は高い。

帝国データバンク大阪支社では、2024 年 11 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている大阪府下企業（108,014 社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2023 年 12 月に続き 16 回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した

調査結果（要旨）

1. 大阪府下のメインバンクは「三井住友銀行」が 5 年連続で首位、「三菱 UFJ 銀行」が 2 位となった。3 位と 4 位には同じグループの「りそな銀行」と「関西みらい銀行」が並ぶ。メガバンクがシェアを下げる一方で、地銀・信金がシェアを上げている
2. 地域別では、企業数の最も多い大阪市内地区など 2 地区で「三菱 UFJ 銀行」、大阪南地区で「三井住友銀行」が首位。大阪北地区では 1 位の「北おおさか信金」が社数を伸ばした
3. 業種別では、「三井住友銀行」が 5 業種で、「三菱 UFJ 銀行」が 2 業種で首位となった。各業種とも 10 位までの顔ぶれは変わらないものの、7 業種中 4 業種で順位変動があった

1. メガがトップ2を堅持も、地銀・信金が社数を伸ばす

大阪府下のメインバンク企業数は、「三井住友銀行」が 17,630 社（前年比 179 社減、構成比 16.3%、同 0.4 ポイント減）と社数、シェアは下げたものの、5 年連続首位。2 位は「三菱 UFJ 銀行」の 17,478 社（同 198 社減、同 0.4 ポイント減）。「みずほ銀行」は 4,390 社（同 66 社減、同 0.1 ポイント減）で 8 位。メガバンクは 3 行ともに社数、シェアを下げっており、近年この傾向が続いている。

3 位の「りそな銀行」は 12,817 社（同 96 社増、同横ばい）。今年 4 月からりそな HD の子会社となった「関西みらい銀行」は 10,730 社（同 11 社増、同 0.2 ポイント減）で 4 位。24 位の「みなと銀行」を含めた同 HD のシェアは 22.0% となった。6 位の「池田泉州銀行」と 10 位の「紀陽銀行」、12 位の「京都銀行」などが社数を増やした。

信用金庫では、「大阪シティ信金」が 153 社増、増加社数が最も多かった「大阪信金」は 240 社増でシェアを伸ばした。「北おおさか信金」も 66 社増となり、地域を支えるトップ 3 の信金はいずれも社数を増やした。上位 10 行のシェアは 82.4% となり、前年比 0.8 ポイント減となった。

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	17,630	16.3%
2	三菱UFJ	17,478	16.2%
3	りそな	12,817	11.9%
4	関西みらい	10,730	9.9%
5	大阪シティ信金	7,173	6.6%
6	池田泉州	6,173	5.7%
7	大阪信金	5,639	5.2%
8	みずほ	4,390	4.1%
9	北おおさか信金	4,251	3.9%
10	紀陽	2,691	2.5%
11	尼崎信金	2,201	2.0%
12	京都	1,223	1.1%
13	永和信金	1,096	1.0%
14	枚方信金	858	0.8%
15	大阪商工信金	795	0.7%
16	南都	681	0.6%
18	京都市信金	681	0.6%
19	徳島大正	498	0.5%
20	大阪厚生信金	435	0.4%
21	阿波	410	0.4%
22	ゆうちょ	333	0.3%
23	近畿産業信組	331	0.3%
24	みなと	257	0.2%
25	のぞみ信組	250	0.2%
26	北陸	230	0.2%
27	京都中央信金	186	0.2%
28	成協信組	185	0.2%
29	香川	151	0.1%
30	三十三	140	0.1%
31	楽天	122	0.1%
32	百十四	119	0.1%
33	大同信組	117	0.1%
34	滋賀	109	0.1%
35	PayPay	102	0.1%
36	住信SBIネット	100	0.1%
37	大阪協栄信組	95	0.1%

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
38	伊予	84	0.1%
39	四国	78	0.1%
40	ミレ信組	74	0.1%
41	きのくに信金	72	0.1%
42	GMOあおぞらネット	67	0.1%
43	三井住友信託	58	0.1%
44	但馬	54	-
45	大阪中河内農協	49	-
46	愛媛	42	-
48	日本政策金融公庫	42	-
49	山陰合同	41	-
50	北国	40	-
51	大阪南農協	39	-
52	中国	37	-
53	名古屋	36	-
54	大阪泉州農協	31	-
55	いずみの農協	30	-
56	大阪府医師信組	29	-
57	播州信金	28	-
58	福井	27	-
59	北河内農協	24	-
60	大阪市農協	24	-
61	三菱UFJ信託	22	-
62	近畿労金	22	-
63	SBJ	21	-
64	十六	19	-
65	広島	19	-
66	高知	19	-
67	大垣共立	18	-
68	福岡	16	-
69	大阪北部農協	16	-
70	グリーン大阪農協	15	-
71	トマト	14	-
72	農林中金	14	-
73	大阪府信連	14	-
74	静岡	13	-
75	十八親和	13	-

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
76	西日本シティ	12	-
77	横浜	11	-
78	SBI新生	11	-
79	奈良信金	11	-
80	大分	10	-
81	東京スター	10	-
82	大阪東部農協	10	-
83	きらぼし	9	-
84	百五	9	-
85	大和信金	9	-
86	神戸信金	9	-
87	日新信金	9	-
88	大阪貯蓄信組	9	-
89	高槻市農協	9	-
90	茨木市農協	9	-
91	山口	8	-
92	千葉	7	-
93	鹿児島	7	-
94	印度	7	-
95	福邦	7	-
96	中京	7	-
97	奈良中央信金	7	-
98	兵庫信金	7	-
99	全信組連	7	-
100	中央信組	7	-
101	堺市農協	7	-
102	未詳	4,932	4.6%

参考資料

前回メインバンク調査 (2023 年 12 月発表)

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	17,809	16.7%
2	三菱UFJ	17,676	16.6%
3	りそな	12,721	11.9%
4	関西みらい	10,719	10.1%
5	大阪シティ信金	7,020	6.6%
6	池田泉州	6,048	5.7%
7	大阪信金	5,399	5.1%
8	みずほ	4,456	4.2%
9	北おおさか信金	4,185	3.9%
10	紀陽	2,627	2.5%
11	尼崎信金	2,144	2.0%
12	京都	1,170	1.1%
13	永和信金	1,068	1.0%
14	枚方信金	853	0.8%
15	大阪商工信金	755	0.7%
16	南都 商工中金	679	0.6%
18	京都信金	636	0.6%
19	徳島大正	477	0.4%
20	大阪厚生信金	430	0.4%
21	阿波	394	0.4%
22	近畿産業信組	308	0.3%
23	ゆうちょ	296	0.3%
24	みなと	260	0.2%
25	のぞみ信組	244	0.2%
26	北陸	233	0.2%
27	成協信組	178	0.2%
28	京都中央信金	172	0.2%
29	香川	154	0.1%
30	三十三	143	0.1%
31	百十四	121	0.1%
32	大同信組	114	0.1%
33	楽天	110	0.1%
34	滋賀	106	0.1%
35	大阪協栄信組	94	0.1%
36	PayPay	92	0.1%
37	伊予	87	0.1%

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
38	四国	79	0.1%
39	ミレ信組	72	0.1%
40	きのくに信金	65	0.1%
41	住信SBIネット	56	0.1%
42	三井住友信託	54	0.1%
43	但馬	52	-
44	大阪中河内農協	50	-
45	愛媛	49	-
46	北国	43	-
47	大阪南農協 日本政策金融公庫	38	-
49	山陰合同	37	-
50	中国	35	-
51	名古屋	34	-
52	GMOあおぞらネット	32	-
53	いずみの農協	31	-
54	大阪泉州農協	30	-
55	大阪府医師信組	29	-
56	福井 播州信金 北河内農協	25	-
59	大阪市農協	24	-
60	広島	23	-
61	三菱UFJ信託	21	-
62	近畿労金	20	-
63	SBJ	19	-
65	高知	19	-
66	十六	18	-
67	大垣共立 福岡 グリーン大阪農協	16	-
69	十八親和 大阪北部農協	15	-
71	静岡 農林中金 大阪府信連	13	-
74	西日本シティ	12	-

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
75	トマト	11	-
76	百五 奈良信金	10	-
78	横浜 山口 大分 鹿児島 日新信金 高槻市農協 大阪東部農協	9	-
85	東京スター 大和信金 神戸信金 全信組連 茨木市農協	8	-
90	千葉 きらぼし 印度 福邦 大阪貯蓄信組 中央信組	7	-
96	鳥取 肥後 琉球 SBI新生 あおぞら ハナ 兆豊国際商業 愛知 中京 信金中央金庫 奈良中央信金 兵庫ひまわり信組 堺市農協	6	-
	未詳	4,335	4.1%

2. 地域別ランキング

地域別では、大阪府下を①大阪市内②大阪北③大阪東④大阪南の 4 ブロックに分別した。(注 1)

① 大阪市内地区

最も社数が多い大阪市内地区に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、1 位「三菱 UFJ 銀行」は前回調査から 100 社以上減少し、2 位「三井住友銀行」は 1 万社を割り込み、シェアも落とした。6 位「みずほ銀行」も 60 社減少し、メガバンク 3 行がいずれも社数を減らした。

上位 10 位に入った地銀・信金は順位こそ変わらないものの、5 位「大阪シティ信金」は 80 社増、7 位「大阪信金」は 89 社増となり、社数、シェアともに伸ばしている。他方、りそなHDの「関西みらい銀行」「みなと銀行」は社数を減らした。

11 位以降の 10 行のうち 9 行が社数を伸ばしており、メガバンクから信金や地銀など地域金融機関への分散が進んでいることが分かる。

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	10,249	19.6%
2	(2)	三井住友	9,929	19.0%
3	(3)	りそな	6,991	13.3%
4	(4)	関西みらい	4,805	9.2%
5	(5)	大阪シティ信金	3,509	6.7%
6	(6)	みずほ	2,824	5.4%
7	(7)	大阪信金	2,324	4.4%
8	(8)	池田泉州	1,475	2.8%
9	(9)	北おおさか信金	1,366	2.6%
10	(10)	尼崎信金	1,070	2.0%
11	(11)	永和信金	724	1.4%
12	(12)	大阪商工信金	453	0.9%
13	(13)	紀陽	417	0.8%
14	(14)	商工中金	317	0.6%
15	(15)	大阪厚生信金	250	0.5%
16	(16)	阿波	239	0.5%
17	(17)	近畿産業信組	237	0.5%
18	(18)	京都	226	0.4%
19	(19)	徳島大正	222	0.4%
20	(20)	みなと	187	0.4%

② 大阪北地区

大阪北地区では、1 位は「北おおさか信金」で 27 社増。シェアこそ 0.1 ポイント減らしたものの 2017 年に当地区で初めて首位になってから 8 年連続でトップを堅持している。一方で、2 位「三井住友銀行」、3 位「三菱 UFJ 銀行」は社数、シェアともに落としており、地元信金がメガバンクのシェアを侵食する傾向が見て取れる。

4 位「りそな銀行」、5 位「池田泉州銀行」の社数は微増、6 位「関西みらい銀行」は微減となった。

「京都銀行」、「京都信金」、「京都中央信金」の京都勢が社数を伸ばしており、京都からの出店を進めたこのエリアで存在感を見せている。

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	北おおさか信金	2,400	17.8%
2	(2)	三井住友	1,929	14.3%
3	(3)	三菱UFJ	1,762	13.1%
4	(4)	りそな	1,387	10.3%
5	(5)	池田泉州	1,359	10.1%
6	(6)	関西みらい	1,185	8.8%
7	(7)	尼崎信金	510	3.8%
8	(8)	みずほ	451	3.4%
9	(9)	京都	309	2.3%
10	(10)	大阪信金	238	1.8%
11	(11)	大阪シティ信金	162	1.2%
12	(12)	京都信金	149	1.1%
13	(13)	京都中央信金	90	0.7%
14	(14)	ゆうちょ	61	0.5%
15	(15)	商工中金	50	0.4%
16	(16)	みなと	45	0.3%
17	(17)	滋賀	32	0.2%
18	(18)	のぞみ信組	25	0.2%
19	(19)	阿波	23	0.2%
20	(22)	近畿産業信組	20	0.1%

③ 大阪東地区

大阪市内地区に続き企業数が多く、金融激戦区である大阪東地区では、「三菱 UFJ 銀行」が首位を守った。2 位は「関西みらい銀行」。3 位の「大阪シティ信金」は 20 社増加してシェアを伸ばし、トップ 5 位の中で唯一の増加となった。

6 位の「枚方信金」をはじめ、8 位の「大阪信金」や 11 位の「京都信金」、12 位の「北おおさか信金」なども順調に社数を増やしている。

東大阪市や八尾市など、大阪府下のなかでも特に中小零細企業が集積する地域を多く抱える当地区では、地元根付いた信用金庫が勢力を拡大している。また、9 位の「京都銀行」や 10 位の「池田泉州銀行」といった地銀勢も社数を伸ばしている。

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	2,973	13.8%
2	(2)	関西みらい	2,924	13.6%
3	(3)	大阪シティ信金	2,880	13.4%
4	(4)	三井住友	2,804	13.0%
5	(5)	りそな	2,039	9.5%
6	(6)	枚方信金	809	3.8%
7	(7)	みずほ	749	3.5%
8	(8)	大阪信金	714	3.3%
9	(9)	京都	630	2.9%
10	(10)	池田泉州	491	2.3%
11	(11)	京都信金	485	2.2%
12	(12)	北おおさか信金	465	2.2%
13	(13)	永和信金	301	1.4%
14	(14)	大阪商工信金	272	1.3%
15	(15)	南都	270	1.3%
16	(16)	尼崎信金	262	1.2%
17	(17)	紀陽	205	1.0%
18	(18)	商工中金	146	0.7%
19	(19)	徳島大正	145	0.7%
20	(20)	大阪厚生信金	113	0.5%

④ 大阪南地区

唯一、金融機関の本店がない大阪南地区では、1 位「三井住友銀行」が 27 社減となり、トップ 10 位の中で唯一減少した。2 位「池田泉州銀行」は前回の 53 社増に続き、今回も 92 社増となり、旧：泉州銀行の地盤での強さが際立っている。

「三菱 UFJ 銀行」は 15 社増で、3 位を堅持。4 位「りそな銀行」は 16 社増、5 位「大阪信金」は 126 社増の大幅増となった。メガバンクが社数を減らし、地銀や信金が伸ばす構図は他地域と変わらない。

「紀陽銀行」が 6 位で 10% 近くのシェアを有するほか、「きのくに信金」も 17 位にランクインするなど、隣接する和歌山県勢が存在感を見せている。

その一方で、「尼崎信金」や「京都銀行」など、地元と距離感のある当地域でも他府県の地域金融機関が一定のシェアを有している。

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	2,968	14.4%
2	(2)	池田泉州	2,848	13.8%
3	(3)	三菱UFJ	2,494	12.1%
4	(4)	りそな	2,400	11.6%
5	(5)	大阪信金	2,363	11.5%
6	(6)	紀陽	2,050	9.9%
7	(7)	関西みらい	1,816	8.8%
8	(8)	大阪シティ信金	622	3.0%
9	(9)	みずほ	366	1.8%
10	(10)	尼崎信金	359	1.7%
11	(11)	南都	238	1.2%
12	(12)	商工中金	163	0.8%
13	(13)	成協信組	123	0.6%
14	(14)	徳島大正	112	0.5%
15	(15)	阿波	81	0.4%
16	(16)	永和信金	66	0.3%
17	(17)	きのくに信金	64	0.3%
18	(19)	大阪商工信金	60	0.3%
19	(21)	ゆうちょ	59	0.3%
20	(22)	京都	58	0.3%

3. 業種別ランキング

業種別の TOP10 のランキングを見ると、前回調査から各業種の上位 10 行の顔ぶれに変動はなかった。「三井住友銀行」が「建設業」「小売業」「不動産業」「運輸・通信業」「サービス業」の 5 業種で、「三菱 UFJ 銀行」が「製造業」「卸売業」の 2 業種でトップとなった。「建設業」で「関西みらい銀行」が 3 位の「三菱 UFJ 銀行」と差を広げ 2 位を堅持した。他の 6 業種では、メガバンク 2 行が上位 2 位までを占めた。

7 業種中、「建設業」「不動産業」「運輸・通信業」「サービス業」の 4 業種で順位の変動があった。「建設業」「運輸・通信業」では「大阪信金」が、「不動産業」では「池田泉州銀行」と「北おおさか信金」が順位を上げた。

また、「サービス業」は首位が交代。トップ 10 に入った全ての金融機関で社数が増加したもの、「三井住友銀行」が「三菱 UFJ 銀行」を抜いて 1 位となった。

業種別では、金融機関ごとに得意とする業種や、不況業種への支援状況が見て取れる。仕入れコストや人件費高騰が資金繰りに直撃する業種では運転資金需要が高くなるため、メインバンクの支援は欠かせない。

【建設業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	4,303	14.4%
2	(2)	関西みらい	4,197	14.0%
3	(3)	三菱UFJ	4,109	13.7%
4	(4)	りそな	3,392	11.3%
5	(7)	大阪信金	2,215	7.4%
6	(5)	大阪シティ信金	2,177	7.3%
7	(6)	池田泉州	2,176	7.3%
8	(8)	北おおさか信金	2,019	6.8%
9	(9)	紀陽	873	2.9%
10	(10)	尼崎信金	785	2.6%

【製造業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	2,229	15.6%
2	(2)	三井住友	2,188	15.3%
3	(3)	大阪シティ信金	1,896	13.3%
4	(4)	りそな	1,445	10.1%
5	(5)	関西みらい	1,157	8.1%
6	(6)	大阪信金	774	5.4%
7	(7)	池田泉州	727	5.1%
8	(8)	みずほ	694	4.9%
9	(9)	北おおさか信金	497	3.5%
10	(10)	紀陽	418	2.9%

【卸売業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	3,623	20.9%
2	(2)	三井住友	3,242	18.7%
3	(3)	りそな	2,252	13.0%
4	(4)	関西みらい	1,388	8.0%
5	(5)	大阪シティ信金	1,200	6.9%
6	(6)	みずほ	1,158	6.7%
7	(7)	池田泉州	843	4.9%
8	(8)	大阪信金	655	3.8%
9	(9)	北おおさか信金	429	2.5%
10	(10)	尼崎信金	388	2.2%

【小売業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,285	16.8%
2	(2)	三菱UFJ	1,189	15.5%
3	(3)	りそな	915	11.9%
4	(4)	関西みらい	810	10.6%
5	(5)	池田泉州	570	7.4%
6	(6)	大阪信金	430	5.6%
7	(7)	大阪シティ信金	382	5.0%
8	(8)	みずほ	358	4.7%
9	(9)	北おおさか信金	279	3.6%
10	(10)	紀陽	262	3.4%

【不動産業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,533	16.4%
2	(2)	三菱UFJ	1,415	15.1%
3	(3)	りそな	1,121	12.0%
4	(4)	関西みらい	1,113	11.9%
5	(5)	大阪信金	492	5.3%
6	(6)	大阪シティ信金	372	4.0%
7	(8)	池田泉州	368	3.9%
8	(9)	北おおさか信金	356	3.8%
9	(7)	みずほ	355	3.8%
10	(10)	紀陽	180	1.9%

【運輸・通信業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	739	18.9%
2	(2)	三菱UFJ	586	15.0%
3	(3)	りそな	478	12.2%
4	(4)	関西みらい	352	9.0%
5	(5)	大阪シティ信金	286	7.3%
6	(7)	大阪信金	234	6.0%
7	(6)	池田泉州	228	5.8%
8	(8)	みずほ	157	4.0%
9	(9)	北おおさか信金	140	3.6%
10	(10)	紀陽	117	3.0%

【サービス業】

順位	前回 順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(2)	三井住友	4,110	16.7%
2	(1)	三菱UFJ	4,106	16.7%
3	(3)	りそな	3,098	12.6%
4	(4)	関西みらい	1,641	6.7%
5	(5)	池田泉州	1,214	4.9%
6	(6)	みずほ	915	3.7%
7	(7)	大阪シティ信金	840	3.4%
8	(8)	大阪信金	822	3.3%
9	(9)	北おおさか信金	511	2.1%
10	(10)	紀陽	474	1.9%

4. まとめ

今回の調査では「三井住友銀行」が 17,630 社で 5 年連続首位、5 年前に首位だった「三菱 UFJ 銀行」が 2 位となった。初回調査から 2 行で 1 位・2 位を独占しているが、メガバンクは店舗形態や店舗網の再編で中小企業向け拠点の統合が進んでおり、年々シェアを下げる結果となった。代わりに、大阪府下の地方銀行や信用金庫がシェアを上げるほか、大阪府外の地域金融機関も勢いを強めている。

近年は、各地銀で取り扱い商品を増やすことで顧客ニーズに対応している。事業承継や人材紹介、海外進出支援、SDGs 対応など、各々の金融機関が特色を発揮している。企業側も地域や規模だけでなく、自社のニーズに合わせて金融機関を選ぶ時代が来ている。

代表の高齢化が進むなか、依然として後継者難の企業は多く存在する。今後、事業承継や M&A を本格的に考える企業は年々増加している。地元企業がエリア外の企業に買収されれば、銀行取引も解消になりかねない。地元企業の事業承継問題は、地域金融機関にとって経営基盤を大きく左右する問題となる。

大阪府内の企業の特徴として多行取引が多いことが挙げられ、10 行以上と取引している企業数は全都道府県でトップだ。企業は多行取引により調達窓口が増えるメリットがあるものの、1 行ごとの貸出シェアは抑えられ、メインバンクの発言力も低下する恐れがある。長期に安定した資金を調達するためには、メインバンクが企業の強みや特性を深く理解するだけでなく、他の取引行との関係性を良好に保つ調整機能とリーダーシップが求められる。

現在、導入が進められている不動産担保や経営者保証などによらない新たな資金調達手段である企業価値担保権。この制度ではメインバンクの役割が大きい。スタートアップや老舗企業など多種多様な企業の事業を把握するとともに成長を促し、時には課題を共に考え、悪化の兆候を早期に把握することも求められる。メインバンクが担う役割は今後大きくなっていく。今後の大阪の成長は金融機関のメインバンク力にかかっていると言っても過言ではないだろう。

(※注 1)

大阪府下の地域別は、①大阪市内地区（大阪市内 24 区）②大阪北地区（豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、三島郡、豊能郡）③大阪東地区（守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市）④大阪南地区（堺市内 7 区、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、泉北郡、泉南郡、南河内郡）の 4 ブロックに分別。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 大阪支社情報部 担当：白濱雄介、昌子拓也

TEL : 06-6441-3100 E-mail : takuya.shouji@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。